

2011 FIA F1 世界選手権シリーズ 日本グランプリレース イベントレポート

2011年10月6日
株式会社モビリティランド
鈴鹿サーキット

鈴鹿サーキットBOXカートグランプリ開催

－ 気仙沼チームがザウバーF1チーム小林可夢偉とデッドヒート －



写真:「チーム気仙沼」の走り

明日からF1日本グランプリが開催される三重県鈴鹿サーキットで、10月6日の本日、F1ならぬBOXカートグランプリが行われた。

この競技は動力のない手作りの車で、下り坂となっている鈴鹿サーキットのメインストレートをかけ下り競うもので、地元チームを中心に神奈川県、京都府、大阪府などから合計20チームが参加した。

そのひとつが宮城県気仙沼市商工会議所

青年部の「チーム気仙沼」で、鈴鹿商工会議所青年部が気仙沼で復興支援活動を行ったおりにBOXカートグランプリの話を持ちかけて、この度の参加が実現した。

「東日本の現状を広く色々な人に知ってほしい」という気仙沼商工会議所の希望に対して「世界的なメディアが集まるF1で伝えませんか」と鈴鹿商工会議所青年部が提案し、気仙沼がコンセプトを担当、鈴鹿がカートを制作する共同作業で完成したのが、今回出場したかつお船をイメージしたカート。

この日の鈴鹿はF1の走行はなく、BOXカートがメインイベント。観衆の大きな拍手の中、チーム気仙沼は小林可夢偉選手が運転するザウバーF1チームとマッチレースを戦った。

さすがF1チーム、可夢偉選手のザウバーF1チームは150mの距離を22秒78で走り、2位を大きく引き離す速さでトップ。チーム気仙沼は28秒83で13位のタイムとなったが、カートの出来具合やチームパフォーマンスを加えた総合ポイントでなんと2位表彰台を獲得。優勝したのはダントツタイムを記録したザウバーF1チームだった。

かつお船をドライブした気仙沼商工会議所青年部前会長の上田克郎(49)さんは「鈴鹿のコースを走るとは夢にも思っていなかった。テンションが上がりました。ただ単に走るだけでなく走りにも形があって面白い。鈴鹿を走らせて感動しています。来年もリベンジのために、ここに来たいと思います」と、感激の面持ち。

鈴鹿商工会議所青年部、F1事業実行委員の山下直人氏(38)「色々な方に見ただけで満足しています。今後も気仙沼で支援活動を続けていきたいと思っています」と語り、イベントの大成功、チーム気仙沼の活躍に上田氏同様満面の笑みを浮かべていた。